

苫小牧市一般廃棄物の推移

1 ごみ量について

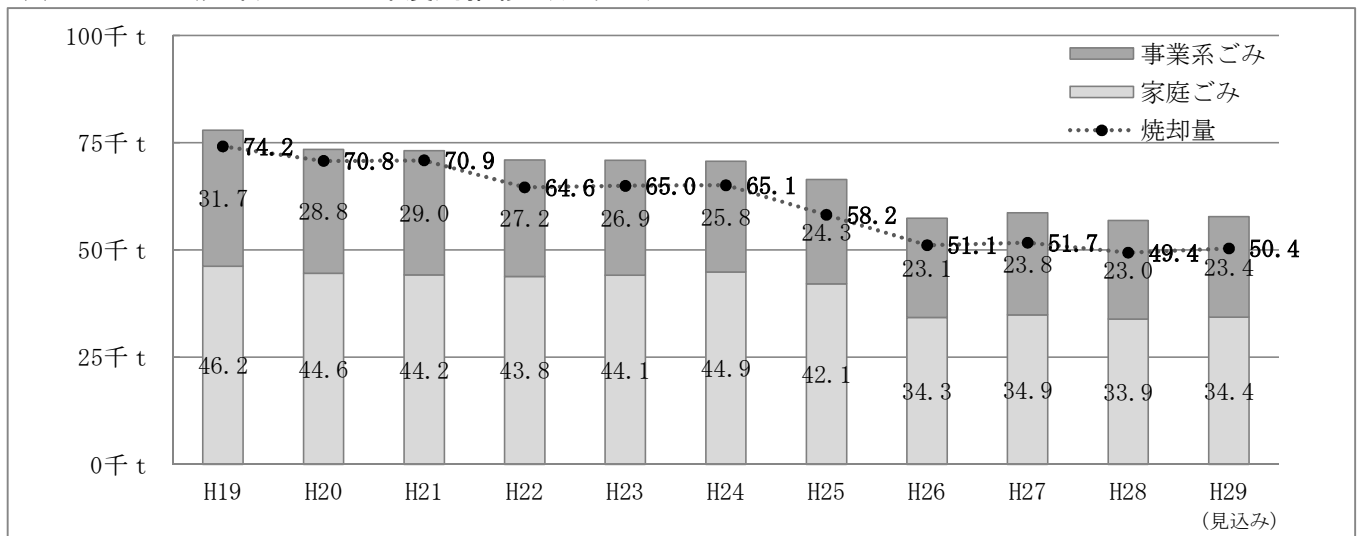
(1) ごみ量・焼却処理量の年度別推移

(単位：t)

	家庭系					事業系				ごみ量 合計	焼却量
	燃やせる ごみ	燃やせない ごみ	資源	大型	小計	燃やせる ごみ	燃やせない ごみ	資源 その他	小計		
H19	38,842	4,817	2,049	497	46,205	27,534	3,716	484	31,734	77,939	74,171
H20	37,592	4,576	1,986	476	44,630	24,873	3,453	517	28,843	73,473	70,762
H21	37,016	4,901	1,843	519	44,279	24,513	3,918	539	28,970	73,249	70,891
H22	35,407	3,883	3,941	561	43,792	23,097	3,538	546	27,181	70,973	64,588
H23	35,608	3,898	4,022	565	44,093	23,242	3,311	299	26,852	70,945	64,977
H24	36,166	4,109	3,942	640	44,857	22,452	3,153	211	25,816	70,673	65,122
H25	30,257	4,152	6,693	1026	42,128	22,488	1,440	395	24,323	66,451	58,186
H26	24,257	1,711	7,433	896	34,297	21,579	1,247	315	23,141	57,438	51,110
H27	24,532	1,798	7,489	1124	34,943	22,272	1,230	280	23,782	58,725	51,685
H28	23,706	1,699	7,385	1,148	33,938	21,437	1,276	260	22,973	56,911	49,367
H29 ※ (見込み)	23,830	1,775	7,514	1,254	34,373	21,698	1,361	369	23,428	57,801	50,366
H29-H28 (見込み)	124	76	129	106	435	261	85	109	455	890	999
対前年度比	100.5%	104.5%	101.7%	109.2%	101.3%	101.2%	106.7%	141.9%	102.0%	101.6%	102.0%

※29年度見込み＝4～2月：29年度実績、3月：28年度実績

(2) ごみ量・焼却処理量の年度別推移 (グラフ)



2 拠点回収の回収量

(1) 拠点回収設置箇所

設置年・月	拠点回収の種類
H19.11	廃食用油拠点回収開始 13か所:大型スーパー、本庁、リサイクルプラザ
H21.10	古着・古布拠点回収開始 (H28より回収対象を綿50%から布類全般に拡大) 8か所:コミセン、植苗ファミリーセンター、勇払公民館 本庁、リサイクルプラザ
H24.4	小型電子機器拠点回収開始 (H23:イベント回収、H26.6～ピックアップ回収開始) 7か所:コミセン、勇払公民館、本庁、リサイクルプラザ
29年度	※都市鉱山からつくる、みんなのメダルプロジェクト参加 (パソコン・携帯電話回収)
H25.7	蛍光管拠点回収開始 13か所:家電量販店、ホームセンター
※参考	民間の拠点回収
27年度	リサイクルステーション
29年度	じゅんかんコンビニ24桜木店
29年度	じゅんかんコンビニ24拓勇店

(2) 拠点回収量の前年度比較

(単位：t)

	H28	H29 (見込み)	H29-H28	対前年度比
主要古紙 ※1 (リサイクルボックス 回収分)	214.80	210.77	△ 4.03	98.1%
新聞紙	98.10	83.71	△ 14.39	85.3%
雑誌	39.60	56.34	16.74	142.3%
ダンボール	77.10	70.72	△ 6.38	91.7%
古着・古布	48.10	55.72	7.62	115.8%
小型電子機器 ※2	34.06	46.52	12.46	136.6%
廃食用油	22.50	23.23	0.73	103.2%
蛍光管	6.88	7.12	0.24	103.5%
合計	326.34	343.36	17.02	105.2%

※1 リサイクルボックス＝主要古紙回収拠点8か所（総合・日吉体育館、沼ノ端スケートセンター、日新温水プール、のぞみ・住吉コミセン、職業訓練センター、リサイクルプラザ）

※2 小型電子機器のうちメダルプロジェクトは1.38t

<参考> リサイクルステーション 苫小牧弥生店 (H27年度回収開始)

H28年度主要古紙回収量 228.87t (内訳:新聞・雑誌 151.19t ダンボール 77.68t)

有害ごみの回収方法の変更について

1 現状と課題

スプレー缶・卓上ガスボンベ・電池などの有害ごみは、現在は燃やせないごみの日に透明又は半透明の別袋に入れて排出しています。収集業者はごみを回収する際に、収集車のごみを格納するホッパー部には入れずに、他の燃やせないごみとは別に横に積んでいます。

本来はスプレー缶・卓上ガスボンベなどの有害ごみは別袋で回収しているので、ホッパーの中に混入されませんが、市民が誤って指定ごみ袋の中に入れて、燃やせないごみと一緒に排出された場合、ホッパー部の中に入り込み、スプレー缶から発生するガスが充満し、積み込み圧縮される際に破裂・爆破を起こし、収集車の火災の原因となっています。また、スプレー缶などは誤って資源物で排出されている場合も多く見受けられます。

さらに、電池も同じ袋で排出されていることから、収集後の分別作業が煩雑であり、リサイクルの効率を改善する必要があります。

◎収集車両火災発生件数状況 (件)

年度	21	22	23	24	25	26	27	28	29
直営	3	0	0	0	0	—	—	—	—
委託	4	8	0	0	2	1	1	3	3
合計	7	8	0	0	2	1	1	3	3

※すべて燃やせないごみの収集日に発生

2 変更の内容

- ・有害ごみの回収を、「燃やせないごみの日」から「燃やせるごみの日」に変更します。
- ・有害ごみのうち電池のみ別袋で排出してもらいます。
- ・変更日は平成30年10月からを予定しています。



《有害ごみ》

- ◇スプレー缶 ◇ガス缶
- ◇水銀式体温計 ◇水銀式血圧計
- ◇ライター



◇電池



- スプレー缶・卓上ガスボンベを出す際は中身を使い切る
- 危険なので穴をあけない

3 変更後の効果

燃やせるごみの日に収集日を変更することで、月1回から週2回に収集回数が増え、1回当りの排出量が減ることが見込まれ、市民の利便性も向上するものと考えられます。

また、市民が誤って指定ごみ袋の中にスプレー缶等を入れて排出した場合に、燃やせるごみの中の生ごみ等に含まれる水分により、火災の発生を防ぎ、収集作業の安全性が確保できます。

さらに、電池は別袋で排出されることで、分別作業に係る時間も短縮され、効率化とリサイクルの推進に繋がります。

4 今後のスケジュール（案）

4月	5月	6月	7月	8月	9月
○町内会へ	の説明会	・出前講座			
○収集業者との協議		○環境月間新聞広告			○広報とまこまい特集号 ○クリーンとまこまい改訂版の全戸配布

資源物（缶・びん）の回収方法の変更について

1 現状と課題

現在、家庭から排出される空き缶・空きびんなどの資源物は、缶・びんなどの収集日に、透明又は半透明の袋と一緒にに入れて回収しています。回収した資源物は、中間処理施設へ搬入され、選別後それぞれの資源化施設へ出荷されます。

収集業者が収集車に積み込む際には、なるべく割れたりすることがないように、積載量を制限して積み込みしていますが、現状では缶とびんが同じ袋に入っているため、割れたびんが缶の中に入り込み、リサイクルされずに燃やせないごみになってしまうケースがあります。

2 変更の内容

空き缶と空きびんを別袋で回収するように変更します。

変更日は平成30年10月からを予定しています。

※ペットボトル、紙パックの回収は従来どおりです。

《缶の種類》

- ◇アルミ缶
- ◇スチール缶
- ◇お菓子の缶
- ◇ミルク缶など



《びんの種類》

- ◇ビールびん
- ◇一升びん
- ◇薬のびん
- ◇化粧びん
- ◇油のびん
- ◇調味料等のびんなど



※空き缶の大きさはミルク缶程度のものまで

3 変更後の効果

空き缶と空きびんを別袋で回収することで、割れたびんが缶の中に入り込むのを防ぎ、リサイクルされずに燃やせないごみとして排出されるケースが減少し、リサイクルの推進に繋がります。

4 今後のスケジュール（案）

有害ごみの回収方法と同じです。

食品ロス削減に向けた取組みについて

まだ食べられるのに捨てられている食べ物、いわゆる「食品ロス」が日本では年間約 632 万トンにも上ります。これを日本人 1 人当たりで換算すると、毎日お茶碗約 1 杯分（約 136g）のご飯の量を捨てていることになります。

大切な食べ物を無駄なく消費し、食品ロスを減らして環境面や家計面にとってもプラスになるような工夫を紹介し、PRいたします。

1 食品ロス削減運動事業

(1) 平成 29 年度の取組み

食品ロス削減啓発として、平成 29 年度から出前講座やイベント開催時に「食品保存方法」・「冷蔵庫整理整頓方法」・「フードドライブ」・「生ごみ 3 きり運動」を PR いたしました。

【開催実績】

	29 年度
イベント等実施回数	32 回

(2) 平成 30 年度の取組み

「食品保存方法」「冷蔵庫整理整頓方法」「生ごみ 3 きり運動」

- ・ 530（ごみゼロ）の日イベントにより、野菜の鮮度の保ち方など紹介
- ・ 冷蔵庫整理整頓の周知としてジップロックコンテナ等を啓発グッズとして配布予定
- ・ 3きり運動の周知として水きりグッズも配布予定

2 フードドライブ事業

(1) 平成 29 年度の取組み

食品ロス削減の取組から事業所や各家庭において、賞味期限はきれていないが、忘れられて保管されたままになっている「もったいない食品」を各コミュニティセンターにおいてフードドライブ（さまざまな理由で処分されてしまう食品をフードバンク等に届ける運動）事業を実施いたしました。

【開催実績】

29 年度	6 月	7 月	1 月	3 月	計
回数・寄贈品数	5 回 10 点	2 回 10 点	4 回 101 点	1 回 25 点	12 回 146 点

(2) 平成 30 年度の取組み

- ・ 12 回程度フードドライブ実施予定

3 ニコとま (2510) 運動

(1) 平成 29 年度の取組み

食品ロス削減の取組みから、宴会時での食べ残し削減にむけ、①宴会が始まったら 25 (ニコ) 分は料理を楽しもう②お開き前の 10 (とま) 分はもう一度料理を楽しもうを PR いたしました。

【周知実績】

・広報とまこまい 12 月号、平成 30 年度ごみ収集カレンダーに掲載

(2) 平成 30 年度の取組み

・飲食店等に協力を仰ぎ、ニコとま運動のちらしやポスターを掲示依頼

